

## 1992年 気象概況

1992年九州地域の気象は、6年続きの暖冬に始まり、顕著な菜種梅雨、梅雨期間の雨量分布の偏り、夏台風3個の上陸、そして残暑と少雨多照の秋などで特徴づけられる年であった。

### 1. 年明けは6年続きの暖冬

西日本では6年、全国的にも4年連続の暖冬であった。この高温傾向は4月まで続いた。1月上旬は冬型の気圧配置が長続きせず曇雨天の日が多く、中旬の初めと終わり、下旬の中頃に移動性高気圧に覆われ晴れたが、概してぐずついた天気であった。29日は南風で4月上旬の気温となった。2月1日は寒気の南下で強風とみぞれ、山沿いで積雪、3日は低気圧や前線の影響で各地に20～60mmの雨が降った。その後高気圧に覆われる日が多かったが24日に平野部で雪、雹があった。春一番は九州北部で29日(平成23日)、その夜北部で30～80mmの大雨があった。1・2月の降水量は南西諸島で平年より多く九州では平年並みであった。

### 2. 菜種梅雨で寡照の春

3月には顕著な菜種梅雨があり記録的な高温・多雨・日照不足となった。概して曇雨天日が多く、特に4～5日と15日には各地で大雨があった。晴天日は中旬初め、下旬の初めと終わりにあったが、各地の降水量は平年の2～3倍と多く、日照時間は平年の0.4～0.5倍とかなり少なかった。4月の天気は周期的に変化して晴天日・雨天日こもごもであった。1日、4日、9～10日にまとまった雨が降った。15日は雷雨や降雪、22日、29～30日は所により雷雨があったが4月の降水量、日照時間は平年と大差なかった。5月上旬の前半は晴天が続いたが後半は前線や低気圧の影響で天気はぐずつき、8日に九州各地で40～150mmの大雨があった。中旬初めと終わりは晴れたが中頃に曇雨天があり、18日には低気圧が九州南岸を通過し南部で雷雨となった。下旬は移動性高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、23日から上空に寒気団が現れ各地で雷雨もあり気温は低めに経過した。

### 3. 梅雨明け遅く南部で多雨、北部は少雨

6月上旬の初めと終わりは高気圧に覆われよく晴れたが、低気圧が5日に九州南部、7日に北部を通過し30～100mmの大雨となった。中旬は晴天日が多かったが、14～15日に梅雨前線が活発となり南部では多いところで150～200mmの降雨があったが中北部の崩れは小さかった。下旬は22～23日低気圧が中部を通過して80～170mmの降雨があった。29～30日は台風3号が沖縄から四国沖へ東北東に進み各地で20～70mmの雨が降った。6月の気温はかなり低めに経過した。7月上旬は前線が南海上に停滞し、曇雨天日が多かったが雨量は南部で多く北部では少なかった。中旬に前線は九州北部から対馬海峡に停滞し

北部で曇雨天日が多かった。下旬は安定した夏型の気圧配置となった。梅雨入りは南西諸島で5月8日(平成11日)、九州で6月5日(平成南部2日、北部8日)であったが、梅雨明けは奄美で7月9日(平成6月28日)九州で7月20日(平成南部13日、北部18日)と遅く、梅雨期間の雨量は南部で1.2～1.5倍と多く、北部では0.5～0.6倍と少なく地域差が大きかった。梅雨期間は概して低温傾向が続いたが、梅雨明けと同時に厳しい暑さがあった。

### 4. 不順な夏、台風3個の上陸

8月になると太平洋高気圧が弱まり気温は一転して低温となり上中旬は全般的に天気もぐずついた。小型で弱い台風9号は豊後水道から行橋に上陸(4日)して九州北部を西進、中型で強い台風10号は玉名市に上陸(8日)して北九州を縦断、中型で並の台風11号は宮崎・大分県境付近に上陸(18日)して山陰沖へ進んだ。このうち10号は九州南部の早期水稲、飼料作物、果樹、野菜等に被害を及ぼし8月の台風としては過去17年間で最も大きな農業災害を残した。下旬後半になって太平洋高気圧が強まり厳しい残暑となった。奄美地方では27日以降台風16号の影響で風雨が強かった。

### 5. 残暑、そして少雨多照の秋

秋の平均気温は南西諸島では平年を下回ったが、その他の地方ではやや上回った。秋雨前線の活動は不活発で9～10月の雨量はとこにより平年の半分以下となり、著しい少雨多照であった。9月は上中旬とも太平洋高気圧に覆われて、暑い晴れの日が続いたが、10日は前線の南下で雨、13～14日は谷が通過したが崩れは小さかった。下旬は全般に曇雨天日が多く、台風19号の影響で21～22日は南西諸島で大雨、23～24日は北部で降雨があった。10月は各旬とも高気圧に覆われて晴天日が多かった。4日に前線の南下、9日に北部上空に寒気の流入があったが崩れは小さかった。14～15日と23日に谷の通過や秋雨前線の停滞により降雨があった。九州本島の10月の降水量は平年の0.14～0.65倍、日照時間は平年の1.07～1.28倍であった。

### 6. 暖かい年の暮れ

11月上旬の天気は短い周期で変化し、気圧の谷や寒冷前線の影響で曇雨天日が多かった。中旬は北部中部では移動性高気圧に覆われて晴れ、南部では前線や谷の影響で曇雨天日が多かった。19～21日は寒冷前線が通過して冬型の気圧配置となり九州各地で20～40mmの降雨があった。下旬は移動性高気圧に覆われて晴天日が多かったが、ときに冬型の気圧配置が強まり、22日熊本で初霜(平成14日)と初氷(平年と同じ)、27日鹿児島で初氷(平成12月5日)があった。11月の平均気温は北部中部で平年並み、南部でやや高かった。12月上旬前半は晴天日が続

第1表 平成4年(1992年)九州の気象、平年値(1961~1990)との比較

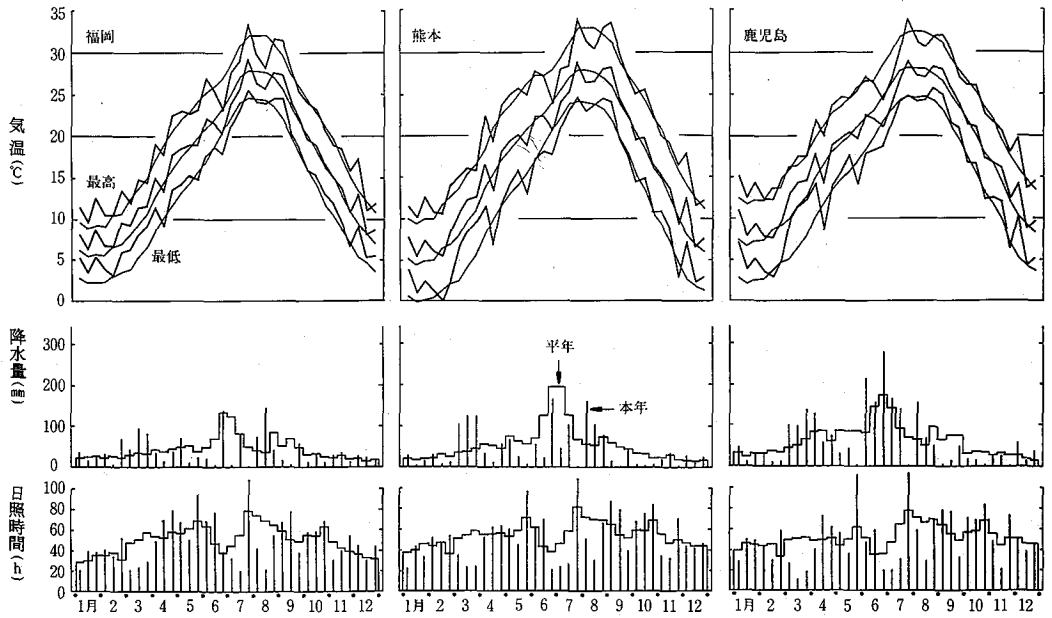
Table with 15 columns (Location, Average, Max, Min,日照, Precip) and 12 rows (Month, Year, Annual Avg, Annual Diff). Locations: 福岡, 佐賀, 長崎, 熊本. Months: 1月 to 12月.

Table with 15 columns (Location, Average, Max, Min,日照, Precip) and 12 rows (Month, Year, Annual Avg, Annual Diff). Locations: 大分, 宮崎, 鹿儿岛, 那覇. Months: 1月 to 12月.

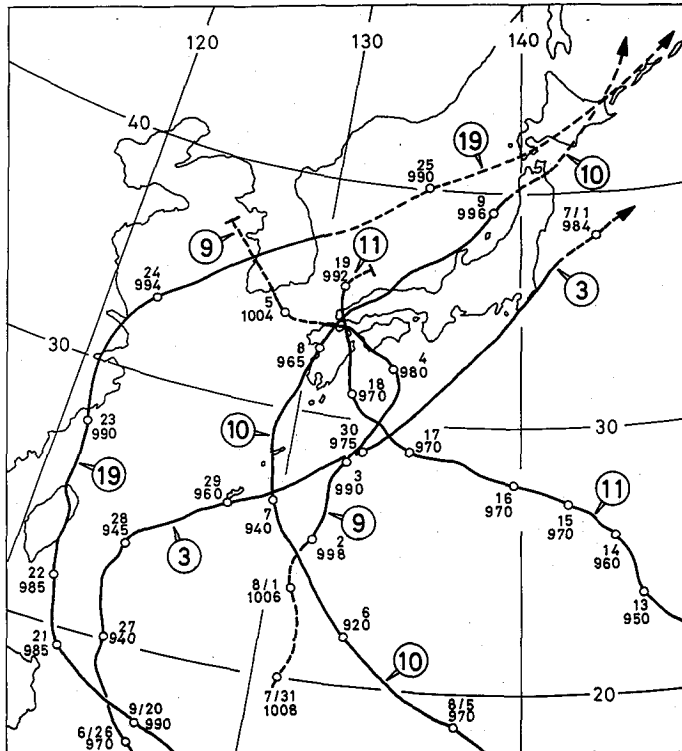
注) 気温は期間平均値(℃)。日照時間と降水量は期間積算値(それぞれh,mm)。平年差[比]は気温では平年差,日照時間と降水量では平年比の値。日照時間は回転式日照計による値。( )内の値は欠測を含む統計値。Rは累年極値の更新。(各県気象月報より作成)

いたが、後半は曇雨天日が多かった。6～7日に九州南部に前線が停滞し20～30mmの降雨があった。中旬半ばに上空に寒気が流入し曇雨天、13日は寒冷前線の通過、20日は低気圧が南部を通過して降雨があった。下旬は23～24日は冬型の気圧配置が強まり雨やみぞれ、25～26日は冬型の気圧配置がゆるみ放射冷却現象で各地で氷点下となった。27～28日は寒冷前線の通過で降雨があった。福岡の初霜19日（平年2日）、初氷19日（平年12日）、初雪23日（平年11日）といずれも平年より遅く、12月の平均気温は九州各地で平年より1.6～2.0℃高く、この冬も西日本を中心に暖冬傾向で滑り出した。

（九州農業試験場生産環境部）



第1図 九州の北・中・南部における気温・降水量・日照時間の旬別値  
(太線：本年値，細線：平年値)



第2図 九州地方に影響した主な台風の経路（気象，1993(2)，12より抜粋）  
注) 大円内の数字：台風番号  
経路上○印：9時の位置，数字は日付と中心付近最低気圧  
経路の破線：弱い熱低または温帯性低気圧の期間